

平成 28 年度 第 2 回南区区民会議

日 時 平成 28 年 6 月 24 日(金) 17:00～

会 場 武蔵浦和コミュニティセンター 8 階 第 7 集会室

次 第

1 開 会

2 議 事

- (1) 前回までのまとめ
- (2) 施策の検討 (全体協議)
- (3) アンケート調査の実施について
- (4) 協議スケジュールの検討

3 その他

4 閉 会

次回会議:平成 28 年__月__旬予定

第2回南区区民会議 施策検討資料(一覧)

【資料1】

	施策	担い手	対象エリア・対象者	事業アイデア	優先的に取り組むこと	施策の評価等
1	自治会(未加入者層→トル)への、参加促進キャンペーン 一集合住宅、二世帯住宅、単身青年層等へ 情報ツールの活用一	自治会役員、自治会連合会 行政の協力、支援も必要	自治会未加入者 加入している人も対象に 賃貸で暮らす単身者もしくは若い夫婦や家族 集合住宅(分譲マンションも) 隣接した自治会	①分かりやすく興味を引くようなPRの工夫 マンガ版『もしも自治会がなかったら?』の作成 ②自治会の交流会を開催 ③自治会ホームページの普及拡大(区の助成・支援) ④集合住宅の建物単位で自治会に加入推進	・広報、告知あるのみ ・集合住宅から始めることも考えられる ・行政の支援を働きかける	・地域の自治、コミュニティの必要性はますます大きくなっている。 ・自治会参加促進キャンペーンと併せて、自治会活動のあり方を見直すべき。
2	ファミリー対象イベント『みなみフレンドパーク』の開催	自治会、任意団体、社協、区役所 JA 定年退職されたばかりの知識と経験豊かな方々	南区/南区内在住者全体を対象 多世代を対象 例えば、区内東部の遊休で開催し、中西部から人を呼び込んで、互いに交流。その逆も可	①一年を通じてなしとげるイベント、米づくり、野菜づくりなど(農園、料理、スポーツ等) ②「地上絵コンクール」地面に大きなイラストを描き、ドローンで空撮して審査(学校対抗、ファミリー対抗など) ③空き家の施設、遊休地・耕作放棄地・休耕田等の選定→複合施設 ④小中学校の校庭、公的な空地・空施設等を、交流イベントに活用できる交流広場(フレンドパーク)にする。	・広く意見・提案を聞き、需要と供給の橋渡しをする実行委員会を組織 ・開催場所の決定→規模(参加者数等)→内容→日時、の順 ・南区内で会場をいくつで順次開催も検討	・ネーミングが魅力的で、ぜひ実現させたい。 ・規模が大きすぎた場合、実現は難しい。会場をいくつかに分けて設定していけば実現可能か。 ・各地区の交流は人の流れを増すので、各地区の商店会も活性化してよいのではないか。
3	高齢者の知識・経験を活かした、区民セミナーの開催 一地域の歴史勉強会、自然観察会、等一	NPO、区役所、市文化財保護課、PTA、自治会、自主防災組織 神社・お寺、公園管理者、警察、JR、南部河川課 地域について知識を持つ定年退職した先生等、高齢者 チャレンジスクールの講師の方々	地域に比較的関心が薄い新住民、小中学生、青年層が主たるターゲット 各地区の“趣味”の会、その他の市民活動団体 自治会	①コミュニティセンター、公民館等において、セミナーを開催 各種団体の要請に応じて出前講座を行う 地域の文化財、史跡の活用 地域を知る(伝統、歴史、出来事、等) 国民健康保険の仕組み等を理解する、等々 ②地域の危険場所点検とマップ化	まず、知識、経験豊かな方々の発掘が必要 知識、経験をもった人の集まり(人材バンク、例えば「南区知恵袋」)を設置する セミナーのコーディネーターの団体を組織して活動	新住民、若い世代が多い南区においては、地域への理解と愛着を持ってもらうために必要性が高い 長寿社会の今、高齢者の方々の活躍の場をつくることは重要 公民館等の事業プログラムとの調整・連携が必要
4	南区地域活動掲示板をつくる 一地区・団体の垣根を超えたイベントカレンダー(マップ)の掲載、駅構内、大型店、コンビニでの地域掲示板の設置一	南区/コミュニティ課 自治会連合会/自治会/地域活動団体 広域的に活動するNPO等	南区/南区内在住者全体を対象 各地域の住民ではなく、他の地域の人々に伝える とくに自治会に加入していない人々に伝えたい	①各地域にある特色ある祭りや年中行事を、一年を通じてのマップに落とし込む ②アナログ、デジタル両方での発信 ③駅、大型店、コンビニ、区役所等での掲示板の設置 ④市報南区版への折りこみ、区ホームページへの掲載 ⑤併せて、大型店を活用した写真コンクールを実施	区内の活動団体に対し、アンケートまたはヒヤリング調査により、イベント内容を洗い出す 定常的に情報を管理する組織が必要(NPO等) 民間施設への設置場所の要請	駅構内、大型店、コンビニなどに地域活動掲示板があれば、より身近な活動として、住民が活動に参加しやすくなるのではないかと あえてマップ化(視覚化)することで、あまり広報誌を見ない若い層にも、南区の地域活動を理解してもらえるのではないかと
5	シニアサポートセンター(地域包括支援センター)を核にした、高齢者の見守り 一国が進める「地域包括ケアシステム」の推進を図るため、シニアサポートセンターの活用を進める。まずは役割や機能を広報し、知ってもらう一	行政機関 教育機関(まずは学校への働きかけ) 民生委員	子どもを含めて、高齢者やその家族 医療機関(まちのクリニック)	①地域にポスターを貼る クリニック、介護施設、学校など ②高齢者見守りキーホルダー 外出先で救急搬送されたときや徘徊時などに対応	行政の指針や計画をまずは確認する シニアサポートセンターの周知ツールをつくる 担い手に対する広報と教育、共通認識の醸成	わかりやすい周知広報ツールをつくる過程で、担い手の理解や共通認識を深めることができる。 介護者となるその家族や、街のクリニックで広報することで、多くの区民が目にする機会をつくることできる。
6	子育て支援策の充実 一親子サロン、子育てサロンの充実を図る 子育ての不安条項を除く環境づくり一	保健センター 学校等教育機関 行政機関(情報、とりまとめ役)	乳幼児とその親 小中学生とその親	①行政主導で、世代別やテーマ別の公開セミナーを開催 参加した方が専門家の先生を知ることができる その後サークルでも情報交換をすることができる ②学校にいるカウンセラーを活用する ③親同士のネットワークを活用してセミナーや相談会の広報をする	まずは区内でどのようなサークルがあるのか把握する 既存のセミナーなどの情報収集をする	子育て支援センターだけではなく、区内の公共施設でセミナー、相談会を開催することができれば、地域交流・多世代交流のきっかけをつくることできる。
7	公共施設を活用したイベントの開催 一コミュニティセンター等の施設を利用したイベントを行う一	各施設の運営者 各施設を活用しているサークル、団体	近くに住んでいる方など 南区区民	①子育て支援の施策で検討しているセミナーや相談会の開催 ②「世代間交流の場」とする ③老朽施設のバリアフリー化、使いやすい施設づくり	まずは来てもらう、足を運んでもらうことが必要	「地域での居場所づくりの施策」は会場を自治会館にこだわることなく、公共施設を活用した本施策とともに検討していくこととした。

< 施策検討シート - 1 > * 5/9 会議まとめ案

<p>施策-1：自治会未加入者層への、参加促進キャンペーン 集合住宅、二世帯住宅、単身青年層等へ 情報ツールの活用</p>	
<p>① 施策の担い手 (進めるうえで中心となる人・団体は誰か)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会役員／自治会連合会 会員すべてが共通の意識を持って新住民に働きかけることが必要 ・行政の協力、支援も必要
<p>② 施策の対象エリア、 対象者 (どんな人・相手・組織に向けたものか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会未加入者 ・事業者、商店、施設等 ・賃貸で暮らす単身者または若い夫婦や家族 ・集合住宅(分譲マンションも) ・単なる加入促進ではなく、自治会活動への参加促進。そのため、すでに加入している人も対象としたい。 ・隣接した自治会
<p>③ 具体的な方法、可能な 事業のアイデア (何をどのように行うか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会が何をやっているかが見えない。自治会活動に参加することの意義、メリット、楽しさなどを伝えることが必要。 ・なんでも行政に頼ることはできないことを理解してもらうことが必要。 ・分かりやすく興味を引くような PR の工夫を。 <u>マンガ版『もしも自治会がなかったら?』を作成したらどうか。</u> ・自治会の交流会を開催し、お互いの“自治会自慢”をして、それぞれの自治会に持ち帰る。それが自治会の質を高める一助になるのではないか? ・自治会ホームページの普及拡大を図る。現在、南区114自治会のうち僅か5自治会しかホームページを開設していない 区が、自治会ホームページ開設を助成することが望まれる。 ・集合住宅の住民には、建物単位で自治会に加入してもらうことを推進。 例えば、世帯数の70%分の会費を納めてもらう、等
<p>④ 施策推進の行程、 優先的に取り組むこと等 (どのような順序・ステップで進めていくか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報、告知あるのみ ・集合住宅から始めることも考えられる ・行政の支援を働きかける
<p>◆ 施策の評価：施策の有効性、実現可能性、区民が主体的に取り組むことの重要性、等 (他の施策との相対的な評価：目的に対する施策の現実性・有用性)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自治、コミュニティの必要性はますます大きくなっている。 ・自治会参加促進キャンペーンと併せて、自治会活動のあり方を見直すべき。多くの自治会で、活動が停滞しマンネリ化しているのではないか。真にコミュニティの中核組織として十分に機能する組織であってほしい。 →21世紀の自治会のあり方 	

< 施策検討シート - 2 > * 5/9 会議まとめ案

施策-2 : ファミリー対象イベント『みなみフレンドパーク』の開催	
① 施策の担い手 (進めるうえで中心となる人・団体は誰か)	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、任意団体、社協、区役所 ・JA ・定年退職されたばかりの知識と経験豊かな方々
② 施策の対象エリア、対象者 (どんな人・相手・組織に向けたものか)	<ul style="list-style-type: none"> ・南区/南区内在住者全体を対象 ・ジュニア、シニアにファミリーも加えた多世代を対象として、世代間交流を図る
③ 具体的な方法、可能な事業のアイデア (何をどのように行うか)	<ul style="list-style-type: none"> ・農園(野菜、果物、園芸)/木工細工/そば打ち/料理、パン・ピザづくり/季節のお菓子づくり(おはぎ、月見団子など)/けん玉、将棋、囲碁/スポーツ(体操)/ダンス(フォークダンス) ・例えば、区内東部の遊休で開催し、中西部から人を呼び込んで、互いに交流。その逆も可 ・一年を通じてなしとげるイベント、米づくり、野菜づくりなど ・「地上絵コンクール」(別紙): 地面に大きなイラスト、まんが等を描き、ドローンで空撮して審査 ファミリー対抗、小学校対抗など ・空き家の施設、遊休地・耕作放棄地・休耕田等の選定→複合施設 ・小中学校の校庭、公的な空地・空施設等を、交流イベントのために定期的に活用できる施設(パーク、あるいは交流広場)とする。
④ 施策推進の行程、優先的に取り組むこと等 (どのような順序・ステップで進めていくか)	<ul style="list-style-type: none"> ・広く地域住民、団体、行政から意見・提案を聞き、需要と供給の橋渡しをする組織が必要。実行委員会を組織 ・開催場所の決定→規模(参加者数等)→内容→日時、の順 ・競馬場のふれあいまつりのように 1 ヶ所に集中しなくても、南区内で会場をいくつか設定し、各催しを順次回していくのもよい ・区民まつり等でアンケート調査を行い、住民の声を聞くことが必要
<p>◆ 施策の評価 : 施策の有効性、実現可能性、区民が主体的に取り組むことの重要性、等 (他の施策との相対的な評価 : 目的に対する施策の現実性・有用性)</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ネーミングが秀逸で魅力的。ぜひ具現化したい。 ・ふれあいまつりの準備の大変さを考えると、規模が大きすぎた場合、実現は難しい。会場をいくつかに分けて設定していけば実現可能か。 ・各地区の交流は人の流れを増すので、最近淋しくなりがちな各地区の商店会も活性化してよいのではないか。 	

< 施策検討シート - 3 > * 5/9 会議まとめ案

施策-3 : 高齢者の知識・経験を活かした、区民セミナーの開催 地域の歴史勉強会、自然観察会、等	
①施策の担い手 (進めるうえで中心となる人・団体は誰か)	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO、区役所、市文化財保護課、PTA、自治会、自主防災組織 ・神社・お寺、公園管理者、警察、JR、南部河川課 ・リタイアした人達/地域に住む高齢者の方々 ・地域について知識をお持ちの小学校の定年退職なされた元先生方 ・各小中学校で行っているチャレンジスクールの講師の方々
②施策の対象エリア、対象者 (どんな人・相手・組織に向けたものか)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に比較的関心が薄い新住民、小中学生、青年層が主たるターゲット ・各地区の“趣味”の会、その他の市民活動団体 ・自治会
③具体的な方法、可能な事業のアイデア (何をどのように行うか)	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンター、公民館等において、セミナーを開催 ・各種団体の要請に応じて出前講座を行う ・地域を知る(伝統、歴史、出来事、等) ・地域の文化財、史跡の活用 ・地域の危険場所点検とマップ化 ・国民健康保険の仕組み等を理解する、等々
④施策推進の行程、優先的に取り組むこと等 (どのような順序・ステップで進めていくか)	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、知識、経験豊かな方々の発掘が必要 ・知識、経験をもった人の集まり(人材バンク)を設置する 例えば、「南区知恵袋」 ・セミナーのコーディネーターの団体を組織して活動 ・浦和区に「CCU(コミュニティキャンパス浦和)」という活動団体があるが、南区でも同様の活動母体を発足させてはどうか
◆施策の評価 ： 施策の有効性、実現可能性、区民が主体的に取り組むことの重要性、等 (他の施策との相対的な評価：目的に対する施策の現実性・有用性)	
・新住民、若い世代が多い南区においては、地域への理解と愛着を持ってもらうために必要性が高い ・長寿社会の今、高齢者の方々の活躍の場をつくることは重要 ・現実に進められる可能性があるのではないか ・コミュニティセンター、公民館等の事業プログラムとの、調整・連携が必要	

＜施策検討シート－４＞ *5/9 会議まとめ案

<p>施策-4：南区地域活動掲示板をつくる</p> <p>地区・団体の垣根を超えたイベントカレンダー（マップ）の掲載、 駅構内、大型店、コンビニでの地域掲示板の設置、 ネット活用も</p>	
<p>①施策の担い手 （進めるうえで中心となる人・団体は誰か）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・南区／コミュニティ課 ・自治会連合会／自治会／地域活動団体 ・広域的に活動するNPO等
<p>②施策の対象エリア、 対象者 （どんな人・相手・組織に向けたものか）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・南区／南区内在住者全体を対象 ・特に自治会に加入していない人々に伝えたい ・各地域の住民ではなく、他の地域の人々に伝え
<p>③具体的な方法、可能な事業のアイデア （何をどのように行うか）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どの地域でも行われている行事ではなく、各地域にある特色ある祭りや年中行事を、一年を通じてのマップに落とし込む。興味あるイベントには、他地域の方でも自由に見学に行けるようにする ・オープンイベントを南区の地図上にプロットして、吹き出しをつける ・アナログ、デジタル両方での発信。ネットは情報を取りに行くものなので、必要な人にしか届かない ・駅、大型店、コンビニ、区役所等での掲示板の設置 ・市報南区版への折りこみ、区ホームページへの掲載 ・費用がかかるが、地域や企業からの協賛金を集められるのではないか ・できれば、年に4回ぐらい（季節ごとに）更新 ・併せて、大型店を活用した写真コンクールを実施
<p>④施策推進の行程、 優先的に取り組むこと等 （どのような順序・ステップで進めていくか）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集。区内の全ての活動団体に対し、アンケートまたはヒヤリング調査により、イベント内容を洗い出す。区民会議に出席してもらいヒヤリングする方法もあるか ・定常的に情報を管理する組織が必要（NPO等） ・民間施設への設置場所の要請 市・区の共催、後援等の公的な位置づけが必要か
<p>◆施策の評価：施策の有効性、実現可能性、区民が主体的に取り組むことの重要性、等 （他の施策との相対的な評価：目的に対する施策の現実性・有用性）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・お知らせということであれば、市のホームページに「イベントカレンダー」が掲載されており、地域ポータルサイトを活用するという方法もあるが、駅構内、大型店、コンビニなどに地域活動掲示板があれば、より身近な活動として、住民が活動に参加しやすくなるのではないか ・あえてマップ化（視覚化）することで、あまり広報誌を見ない若い層にも、南区の地域活動を理解してもらえるのではないか ・南区の魅力を区内外にアピールする効果もある ・ハードルは高いが、是非できるところから取り組みたい ・オリンピックに合わせて、外国人等の南区への来訪を促進したい 	

＜施策検討シート-5＞ *5/9 会議まとめ案

<p>施策-5：シニアサポートセンター（地域包括支援センター）を核にした、高齢者の見守り</p> <p>国が進める「地域包括ケアシステム」の推進を図るため、シニアサポートセンターの活用を進める。まずは役割や機能を広報し、知ってもらう。</p>	
<p>①施策の担い手は誰か （進めるうえで中心となる人・団体）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政機関 ・ 教育機関（まずは学校への働きかけ） ・ 民生委員
<p>②施策の対象エリア、対象者は誰か</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもを含めて、高齢者やその家族 ・ 医療機関（まちのクリニック）
<p>③具体的な方法、可能な事業のアイデア （何をどのように行うか）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちのクリニックに案内をすれば広がるのではないか ・ 地域にポスターを貼る →クリニック、デイサービスなどの介護施設、学校など ・ 高齢者見守りキーホルダー（他の自治体での施策） 本人が事前にシニアサポートセンターにかかりつけ医や疾患等の情報を登録し、個人番号で管理。その番号が書かれたキーホルダーを各自携帯することで、外出先で救急搬送されたときや徘徊時などに迅速対応できる。登録は年に1回更新することでシニアサポートセンターとの関わりをもつことができる。 (課題等) ・ まず、窓口がどこかわからない →南区には3箇所の地域包括支援センターがある →機能や役割なども知ってもらう必要がある ・ シニアサポートセンターで折り紙等子ども向けのイベント開催 →人材不足で実施できない ・ 民生委員と「会いたくない方」もいる ・ 市の広報に載っているが見ない、読まれていない →年に1回くらい掲載されている ・ 区のどのセクションが担当しているのか？ →高齢介護課
<p>④施策推進の行程、優先的に取り組むこと等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1, 行政の指針や計画をまずは確認する 2, シニアサポートセンターの周知ツールをつくる 3, 担い手に対する広報と教育、共通認識の醸成
<p>◆施策の評価：施策の有効性、実現可能性、区民が主体的に取り組むことの重要性、等 （他の施策との相対的な評価：目的に対する施策の現実性・有用性）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ シニアサポートセンターの機能や今後の計画について知り、わかりやすい周知広報ツールをつくる過程で、広報を担当する担い手の理解や共通認識を深めることができる。 ・ シニアだけを対象とするのではなく、介護者となるその家族や、街のクリニックで広報することで、多くの区民が目にする機会をつくることができる。 	

<施策検討シート-6> *5/9 会議まとめ案

<p>施策-6： 子育て支援策の充実 親子サロン、子育てサロンの充実を図る、 子育ての不安条項を除く環境づくり</p>	
<p>①施策の担い手は誰か (進めるうえで中心となる人・団体)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健センター ・学校等教育機関 ・行政機関 (情報、とりまとめ役)
<p>②施策の対象エリア、 対象者は誰か (どんな人・相手・組織に向けたものか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児とその親 ・小中学生とその親
<p>③具体的な方法、可能な事業のアイデア (何をどのように行うか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政主導で、世代別やテーマ別の公開セミナーを開催 ・セミナーに参加した方が専門家の先生を知ることができる ・その後サークルでも情報交換をすることができる ・学校にいるカウンセラーを活用する ・親同士のネットワーク、SNS (ソーシャル・ネットワークサービスを活用してセミナーや相談会の広報をする <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て育てサークルやママ友サークルなど、同じ環境の方たちが集まり話をすることが重要 ・専門家へ相談したいことがあっても個別には難しい ・それぞれ乳幼児や小中学生で相談内容も異なる (例えばおこづかいのあげ方やなど) ・セミナー、相談会等は行政でも開催しているが、働いている方、生活が困難な方などへの対応はどうするか
<p>④施策推進の行程、 優先的に取り組むこと等 (どのような順序・ステップで進めていくか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは区内でどのようなサークルがあるのか把握する ・既存のセミナーなどの情報収集をする
<p>◆施策の評価： 施策の有効性、実現可能性、区民が主体的に取り組むことの重要性、等 (他の施策との相対的な評価： 目的に対する施策の現実性・有用性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型のマンション建設が進み、子育て世帯の人口増が予想される南区において、子育てしやすいまちづくりを目指す施策は多くの区民のニーズがある。 ・子育て支援センターだけでなく、区内の公共施設でセミナー、相談会を開催することができれば、地域交流・多世代交流のきっかけをつくることができる。 	

<施策検討シート-7> *5/9 会議まとめ案

<p>施策-7： 公共施設を活用したイベントの開催 コミュニティセンター等の施設を利用したイベントを行う。</p>	
<p>①施策の担い手は誰か (進めるうえで中心となる人・団体)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設の運営者 ・核施設を活用しているサークル、団体
<p>②施策の対象エリア、 対象者は誰か (どんな人・相手・組織に向けたものか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに住んでいる方など ・南区区民
<p>③具体的な方法、可能な事業のアイデア (何をどのように行うか)</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは来てもらう、足を運んでもらうことが必要 ・築30年、40年の公民館などはバリアフリーとはなっていない、高齢の方など来て欲しい方が来づらくなっている <p>【具体的な事業アイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世代間交流の場」とする
<p>④施策推進の行程、 優先的に取り組むこと等 (どのような順序・ステップで進めていくか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の施策で検討しているセミナーや相談会の開催
<p>◆施策の評価： 施策の有効性、実現可能性、区民が主体的に取り組むことの重要性、等 (他の施策との相対的な評価：目的に対する施策の現実性・有用性) ・「地域での居場所づくりの施策」は会場を自治会館にこだわることなく、公共施設を活用した本施策とともに検討していくこととした。</p>	

■施策に関するアンケート調査について（提案）

（目的）

- ・これまでの区民会議の協議結果について、区民・自治会・市民活動団体等にアンケートを実施することにより、区民会議の協議内容を、より区民のニーズ・関心にマッチしたものであるとしていくため。

（アンケートの内容）

- ・個々の施策、およびその事業アイデアについて、区民等の意見を聞く。
- ・7つの施策については、3段階ぐらいで評価してもらう。
 - A：有効であり、ぜひ進めるべき
 - B：有効（あるいは必要）なので、検討していくべき
 - C：あまり有効ではない
- ・施策ごとの主な事業アイデアについて、よいと思うものにチェックをつけてもらう。（いくつでも可でよいか）
- ・各施策に関して、自由な意見、感想、アイデア等を書いてもらう。
- ・併せて、回答者の性別、年齢階層、居住地を書いてもらって、結果読み取りの参考にしたい。

（アンケートの対象、方法等）

- ・各委員を通じて、委員推薦団体所属員（5～10人程度）および市民活動ネットワーク団体等にアンケート協力を依頼。
 - 対象は基本的に南区民の方に
- ・イベント等での実施。
 - （9月）笹目川納涼の夕べ（辻地区内）：来場者約500人。
 - 来場者はほぼ近隣地区在住であるため、かなり地区が限定される。
 - （11月）南区ふるさとふれあいフェア：来場者約50,000人。
 - 11月5日開催のため、アンケート結果集計、施策反映・協議が日程的にかなり厳しいか。
- ・区役所ロビー等での実施。
 - 無人での実施も可能。ただし、来庁者は自身の用事のために足を運んでいるため、有人で実施する際も同様に、アンケートに協力してもらうことは基本難しいものと思われる。

（回収目標）

- ・できれば、100票以上の回収を目指す。

南区区民会議の提案についてご意見をください

平成 27・28 年度の南区区民会議では、「地域交流の促進による安心して生き生き暮らせるまちづくり」をテーマにして協議を行っています。現在までの協議で、区民が中心となって進めていくこととして、7つの施策が出てきておりますが、より区民ニーズにあった内容とするため、区民のみなさまのご意見をいただければと思っております。

ぜひ、アンケートへのご協力をお願いいたします。

- ・ 施策（1～7）の有効性について、3段階で評価してください。
 A：有効であり、ぜひ進めるべき B：必要なので、検討していくべき
 C：あまり有効ではない
- ・ 提案についての感想等を自由にお書きください。

<施策-1> 自治会への参加促進キャンペーン

評価

地域の安全・安心、住みよいまちにするため、自治会は地域の中心となって、様々な共同活動を行っています。しかし、南区の自治会活動参加者数は、なかなか増加していないのが現状です。

そのため、マンションなどの集合住宅や単身世帯、若い世代への自治会加入を働きかけるとともに、自治会活動への参加の促進を図ります。

【上記の施策を進めるにあたり“有効”だと思うものに、をつけてください】（いくつでも可）

- 加入促進に加え、自治会活動への参加を促進する。
- 自治会活動の意義、楽しさなどを伝えるマンガ版『もしも自治会がなかったら？』の作成。
- 自治会ホームページの普及拡大を図る。
- 集合住宅の住民への、建物単位での自治会加入促進。

（ご意見があればお書きください）

<施策-2> ファミリーイベント『みなみフレンドパーク』の開催

評価

まちの持続的な発展には、居住者の年齢構成のバランスを保つ必要があり、現在の高齢化社会においては、若い世代に選ばれるまちであることが求められます。

そのため、ふるさとふれあいフェア（区民まつり）をはじめとする現在実施している各種イベント・教室等の開催に加え、ファミリー層向けのイベント等を企画し、家族で楽しめる機会を充実させます。

【上記の施策を進めるにあたり“有効”だと思うものに、をつけてください】（いくつでも可）

- 区内東部の遊休地で開催し、中部・西部からの人を呼んで交流する。
- 「地上絵コンクール」（地面に大きなイラストを描き、ドローンで撮影して審査）を学校対抗等で開催。
- 耕作放棄地等を活用した、一年を通じた米づくり、野菜作り。
- 公的な空地・空き施設等を、交流イベントのための定常的に活用できる施設（フレンドパーク）にする。

（ご意見があればお書きください）

平成 28 年度南区区民会議協議スケジュール（案）

	(時期)	(協議、調査の内容)	(備考)
第1回	5/9(月)	・昨年度協議で残された施策についての掘り下げ検討 (1班: #2~5、2班: #7~9)	2班によるグループ討議
第2回	6/24(金)	・施策のまとめ(前回までのグループ協議)、 施策案の検討(ブラッシュアップ) ・協議スケジュールの検討 ・アンケート調査の方向について	全体協議
第3回	7月?	・施策のまとめ(前回協議のまとめ) ・アンケート内容、方法等の確認(アンケートを実施する場合)	全体協議及びグループ討議
第4回	9月? または	・アンケートの実施 区民会議委員所属団体、市民活動ネットワーク団体等へのアンケートまたはイベント等でのヒアリング方式によるアンケート等	(アンケートを実施する場合)
—	11/5(日)	<南区ふるさとふれあいフェア>	
第5回	11月?	・アンケート結果の報告 ・アンケート結果を踏まえた協議報告書(素案)の検討	全体協議
第6回	1~2月	・報告書案の検討	全体協議
第7回	3月	・報告書の提出	* 主としてセレモニー